

土屋粹の分裂・破壊策動粉碎し 着実に前進する佐倉支部

土屋一味のサギ的『組合費徴収』策動、完全に破産！

土屋一味の目論む「本部派支部」デッチ上げⅡペテン的「業務再開」路線は、佐倉支部組合員の怒りの決起の前にひとつひとつ粉碎されつつある。

中でも、七月十九日から開始された七月組合費徴収にあたって、自分の知らぬうちに勝手に「本部派組合員」として申請されてしまっている仲間の多くからまき起っている怒りの声の前に、土屋一味のサギ的「組合費徴収Ⅱ本部派デッチ上げ」策動は当然にも完全に破産した。

職場から逃げ出した土屋一味

「業務再開」と称してペテン的に「本部派佐倉支部」なるものをデッチ上げようとした土屋粹は、組合費徴収日である七月十九日には職場に姿も見せることができず逃亡をきめこんだ。また、何の正当なる資格もないのにこれまで土屋粹の片腕として、土屋粹の遠隔操作をうけて当局の不当労働行為的庇護のもとで各人の給料袋から種々の名目の金額をペテン的に天引きしたり、土屋直筆の秘密連絡メモを何人かの給料袋にこっそりと同封したりするサギ行為を担ってきた事務掛・鈴木克巳は、すっかり消耗してしまい、なんと組合費徴収当日になって電話で突発休みを申し出るなど、総崩れ状況を示してしまった。

追いつめられ、焦って、ペテン的に「八四名で業務を再開する」と申請し、ごうごうたる抗議がまき起るや「七月から『本部』組合費を徴収する。その時に何人組合員なのかはつきりする」と居直ろうとした土屋粹の反動的・ペテン的路線が大多数の仲間の「土屋一味への組合費納入拒否」の現実の前に、今や完全につき崩されてしまったのである。まさに、土屋粹の自称「本部派支部」なるものはペテンの上に積み上げられた「幻の組織」であること、同時にそれが、ただひたすら当局と野合し、「本部」反動暴力分子を職場に呼びこみ、佐倉の職場を混乱させるためのものであることが職場の中で誰の目にもはっきりと突き出されたのである。

55.10合理化粉碎-56.3勝利へ
職場の声 団結強化へまい進中！

七月十五日、『日刊』編集部は佐倉機関区をたずね、連日の闘いの渦中にある佐倉支部の組合員の方々から色々な感想等をおききした。

ペテン的な「本部派支部」デッチ上げ策動の中で、支部結成以来七ヶ月余りの闘いの前進によって、自信と確信にみちた生き生きとした佐倉支部組合員の感想が多く出された。

ある年輩の検査長は――
「鉄道生活は残り少いけれど、組合員が仲よくまとまって団結してやっていきたいと願っている。支部結成大会以降、非常に喜びをもつてやっている。」と語ってくれた。

また、検査掛のひとり――
「佐倉機関区をおかしくするために、一部の人間がやっているんだ。今全員で一本にまとまるためにも執行部も大いに努力してほしい。」

また、ある組合員は――
「『本部派』がもしできれば大変な混乱が持ち込まれることは俺だつて判る。なぜ団結を崩すようなことをやるのか理解できない。」等と、自信のなかでも怒りをあらわにしさらに全員でがんばっていかうとの決意がこめられている。そして、何よりも、この間の「『本部派支部』デッチ上げⅡ『組合費徴収』」策動の中にあっても、「八四名」の中から着々と動労千葉への結集ががちとられていつている現実、こうした佐倉支部の闘いの着実な前進を、われわれは全体で大きく包み、共に闘いぬいていかうではないか。

日刊 動労千葉

80.7.26

NO.492

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（電話）二五八八九（公衆電話）（22）七二〇七